

04 第二期中期計画の変更案について

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>兵庫県立大学は、平成 25 年 4 月に公立大学法人に移行し、自律性を高めながら、旧 3 大学の伝統と総合大学の強みを生かした個性、特色豊かな大学づくりに取り組んできた。</p> <p>芸術文化観光専門職大学は、令和 3 年 4 月に芸術文化及び観光の双方の視点で社会に貢献する大学として開設した。</p> <p>この 2 つの大学のそれぞれの強みと特色を生かして、教育研究の高度化や相乗効果を生み出すとともに、効率的な経営を行うことを目指し、兵庫県公立大学法人で運営することとした。</p> <p>兵庫県公立大学法人の組織としては、2 つの大学の特色を生かし、その自立的発展を期するため、「理事長・学長分離型」を引き続き採用するとともに、各大学に大学運営について協議する組織として大学理事会を置き、各大学の特色や独自性を確保するものとする。</p> <p>今日、大学を取り巻く環境は、グローバル化や情報科学技術の進展、18 歳人口の減少や人生 100 年時代の到来、地域創生の推進など、大きく変化してきている。両大学がこれからも弛まぬ大学改革に留意し、地域の知の拠点として、地域の発展と我が国の繁栄はもとより、世界が直面する課題の解決に貢献する教育、研究を行い、社会から信頼され評価される、世界水準の大学となるよう、以下のとおり兵庫県公立大学法人の中期目標を定める。</p>	<p>第 1 趣旨</p> <p>兵庫県は、令和 3 年 4 月に芸術文化観光専門職大学を開設するに当たり、兵庫県立大学における旧 3 大学の伝統と総合大学の強みや、芸術文化観光専門職大学における芸術文化及び観光の双方の視点で社会に貢献する特色等を生かし、各大学の独自性を確保しつつ、教育研究の高度化や相乗効果を生み出すとともに、効率的な経営を行うために、兵庫県公立大学法人が両大学を運営することを定める定款変更を行い、併せて第二期中期目標を変更した。</p> <p>そこで、兵庫県公立大学法人として、変更後の第二期中期目標を達成するため、第二期中期計画を以下に示す。</p>	<p>第 1 趣旨</p> <p>兵庫県は、令和 3 年 4 月に芸術文化観光専門職大学を開設するに当たり、兵庫県立大学における旧 3 大学の伝統と総合大学の強みや、芸術文化観光専門職大学における芸術文化及び観光の双方の視点で社会に貢献する特色等を生かし、各大学の独自性を確保しつつ、教育研究の高度化や相乗効果を生み出すとともに、効率的な経営を行うために、兵庫県公立大学法人が両大学を運営することを定める定款変更を行い、併せて第二期中期目標を変更した。</p> <p><u>このため、兵庫県公立大学法人は変更後の第二期中期目標を達成するため、第二期中期計画を変更した。</u></p> <p><u>令和 4 年 6 月、兵庫県公立大学法人は第二期中期計画前半 3 年間の総合的な自己点検及び評価をとりまとめ、計画の達成に向け概ね順調に進捗していることを確認した。一方、計画策定後、グリーントランスフォーメーション（GX）、デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展やコロナ禍等、大学を取り巻く社会環境が急激に変化し、大学として迅速に対応すべき課題が顕在化してきている。この状況に迅速果断に対応し、新しい時代に即した大学改革を実現するため、令和 6 年度までの計画期間中に取り組む新たな課題の設定や到達目標の見直しを行い、第二期中期計画を以下のとおり変更する。</u></p> <p><u>特に、時代の潮流を的確に捉え、重点的に取り組む分野として、水素エネルギー研究等の GX 関連研究の推進、グローバルリーダーをはじめとした次世代リーダーの育成、学際的・創造的研究の推進による SDGs 達成への貢献、ポストコロナを見据えた新たな教育手法の確立（教育 DX）等を追加する。</u></p>	<p>今回の変更理由を追加</p>
<p>第 1 基本的な目標</p> <p>1 兵庫県立大学</p> <p>～次代を先導する世界水準の大学～</p>	<p>【基本計画】</p> <p>1 兵庫県立大学</p>	<p>【基本計画】</p> <p>1 兵庫県立大学</p>	
<p>豊かな人間性を備えた創造的な人材を育成し、あわせて学術的な新知見を国内外に発信し、もって地域の発展と我が国の繁栄、ひいては世界、人類の幸せに貢献することを目標とする。</p> <p>【今後一層めざすべき大学像】</p> <p>① 国内外で自立し活躍する次代を担うリーダーを育成する大学</p>	<p>① 国内外で自立し活躍する次代を担うリーダーを育成する大学</p> <p>第二期中期計画のスタートと同時に学部を統合再編し、「国際商経学部」と「社会情報科学部」の 2 学部を開設する。これらの新学部においては、グ</p>	<p>① 国内外で自立し活躍する次代を担うリーダーを育成する大学</p> <p>第二期中期計画のスタートと同時に学部を統合再編し、「国際商経学部」と「社会情報科学部」の 2 学部を開設する。これらの新学部においては、グ</p>	

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>② 次代を切り拓く先導的・創造的な研究を推進する大学</p> <p>③ 兵庫の強みを生かし、地域の未来の活力創出に貢献する大学</p>	<p>ローバル化や情報科学技術の進展に対応した教育を着実に推進していく。</p> <p>また、このような改革を全学的な取組へと広げ、グローバル社会で活躍できるリーダーや地域の発展に貢献し地域を支える人材等、幅広い教養や高い専門性に加え、豊かな人間性と公共の精神も備えた、創造力と自律性を有する人材を育成するとともに、今後も社会のニーズに的確に対応した教育改革に取り組んでいく。</p> <p>② 次代を切り拓く先導的・創造的な研究を推進する大学</p> <p>本学が有するニュースバルをはじめ、SPring-8、SACLA、スーパーコンピュータ「富岳」等、県下に集積する研究基盤と兵庫の特色ある地域資源を活用し、世界最先端の研究を推進する。</p> <p>また、異分野間の融合を重視した学際的研究や国内外の大学・研究機関との共同研究等により、先導的・創造的な研究を推進し、未来の産業構造と社会変革に向けた新たな価値の創出に取り組み、革新的な研究成果を世界に向けて発信する。</p> <p>③ 兵庫の強みを生かし、地域の未来の活力創出に貢献する大学</p> <p>本学の持つ知的資源を広く社会に還元し、兵庫における知(地)の拠点として、産学官連携による新産業の創造や地域経済の振興、県民に対する生涯学習機会の提供等を通じた地域の再生・活性化、外国人留学生を含む本学で学んだ学生の地元企業への就職の促進等、地域社会が求める人材の輩出、さらには震災の経験と教訓を踏まえた安全・安心な地域社会の構築等、兵庫をフィールドに社会の発展や課題解決に貢献する。</p> <p>I oT・ビッグデータ・人工知能の活用、グローバル化の急速な進展、本格的な人口減少社会の到来等、大学を取り巻く環境がかつて経験したことのないスピードで変化する中、第二期中期計画を着実に推進し、県民や社会からの負託に応えていくため、理事長・学長のリーダーシップのもと、教職員が一丸となって全学的な大学改革に取り組んでいく。</p> <p>そのような取組を進めることにより、創立時に掲げた基本理念を礎に、社会において存在感を発揮し、「兵庫県立大学創基 100 周年ビジョン」の基本方向である、①学生や卒業生から誇りとされる大学、②地域や自治体から「知(地)の拠点」として信頼される大学、③企業や団体から有為な人材を輩出すると評価される大学として、公立大学のトップクラス、そして世界水準の大学の実現を図る。</p>	<p>ローバル化や情報科学技術の進展に対応した教育を着実に推進していく。</p> <p>また、このような改革を全学的な取組へと広げ、グローバル社会で活躍できるリーダーや地域の発展に貢献し地域を支える人材等、幅広い教養や高い専門性に加え、豊かな人間性と公共の精神も備えた、創造力と自律性を有する人材を育成するとともに、今後も社会のニーズに的確に対応した教育改革に取り組んでいく。</p> <p>② 次代を切り拓く先導的・創造的な研究を推進する大学</p> <p>本学が有するニュースバルをはじめ、SPring-8、SACLA、スーパーコンピュータ「富岳」等、県下に集積する研究基盤と兵庫の特色ある地域資源を活用し、世界最先端の研究を推進する。</p> <p>また、異分野間の融合を重視した学際的研究や国内外の大学・研究機関との共同研究等により、先導的・創造的な研究を推進し、未来の産業構造と社会変革に向けた新たな価値の創出に取り組み、革新的な研究成果を世界に向けて発信する。</p> <p>③ 兵庫の強みを生かし、地域の未来の活力創出に貢献する大学</p> <p>本学の持つ知的資源を広く社会に還元し、兵庫における知(地)の拠点として、産学官連携による新産業の創造や地域経済の振興、県民に対する生涯学習機会の提供等を通じた地域の再生・活性化、外国人留学生を含む本学で学んだ学生の地元企業への就職の促進等、地域社会が求める人材の輩出、さらには震災の経験と教訓を踏まえた安全・安心な地域社会の構築等、兵庫をフィールドに社会の発展や課題解決に貢献する。</p> <p>I oT・ビッグデータ・人工知能の活用、グローバル化の急速な進展、本格的な人口減少社会の到来等、大学を取り巻く環境がかつて経験したことのないスピードで変化する中、第二期中期計画を着実に推進し、県民や社会からの負託に応えていくため、理事長・学長のリーダーシップのもと、教職員が一丸となって全学的な大学改革に取り組んでいく。</p> <p>そのような取組を進めることにより、創立時に掲げた基本理念を礎に、社会において存在感を発揮し、「兵庫県立大学創基 100 周年ビジョン」の基本方向である、①学生や卒業生から誇りとされる大学、②地域や自治体から「知(地)の拠点」として信頼される大学、③企業や団体から有為な人材を輩出すると評価される大学として、公立大学のトップクラス、そして世界水準の大学の実現を図る。</p>	

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>2 芸術文化観光専門職大学 ～芸術文化及び観光の双方の視点で社会に貢献する大学～</p>	<p>2 芸術文化観光専門職大学</p>	<p>2 芸術文化観光専門職大学</p>	
<p>芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出する専門職業人を育成し、あわせて地域に根ざした教育研究活動を推進し、もって地域及び国際社会に貢献することを目標とする。</p> <p>【今後一層めざすべき大学像】</p> <p>① 芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する専門職業人を育成する大学</p> <p>② 芸術文化及び観光を架橋した地域活性化に資する研究を推進する大学</p> <p>③ 地域の発展・繁栄及び新たな国際交流の推進に貢献する大学</p>	<p>① 芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する専門職業人を育成する大学</p> <p>全学生が演劇的手法を取り入れた対話的コミュニケーション能力を基礎に、芸術文化及び観光のマネジメント能力並びに価値創造の能力を身につける教育課程を編成する。</p> <p>芸術文化と観光の両分野を架橋した学びを地域社会と共有し、地域社会をフィールドとした実習や実践教育により地域を活性化する人材、ひいては芸術文化と観光の両分野を架橋した学びを国内外に発信し、世界に通じる専門職業人を育成する。</p> <p>② 芸術文化及び観光を架橋した地域活性化に資する研究を推進する大学</p> <p>本学の強みである、芸術文化と観光を架橋し、理論と実践を重視した分野横断的な地域活性化に資する研究を推進する。</p> <p>また、地域リサーチ&イノベーションセンターを中核とした産学官の協働関係・ネットワークを構築し、多様な主体との共同研究、受託研究を推進し、研究成果を広く国内外に発信する。</p> <p>③ 地域の発展・繁栄及び新たな国際交流の推進に貢献する大学</p> <p>地域の企業・団体、行政、地域住民、金融機関等多様な主体と協働し、イノベーション機能を発揮するために、地域のプラットフォーム拠点を形成することで、地域の活性化に貢献する。</p> <p>また、大学の特長を生かした実践講座や小中高大連携、劇場等を活用した県民の新たな学びの提供を行うとともに、海外大学との協定や国際的な芸術祭での実習を通じた地域の国際交流に貢献する。</p>	<p>① 芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する専門職業人を育成する大学</p> <p>全学生が演劇的手法を取り入れた対話的コミュニケーション能力を基礎に、芸術文化及び観光のマネジメント能力並びに価値創造の能力を身につける教育課程を編成する。</p> <p>芸術文化と観光の両分野を架橋した学びを地域社会と共有し、地域社会をフィールドとした実習や実践教育により地域を活性化する人材、ひいては芸術文化と観光の両分野を架橋した学びを国内外に発信し、世界に通じる専門職業人を育成する。</p> <p>② 芸術文化及び観光を架橋した地域活性化に資する研究を推進する大学</p> <p>本学の強みである、芸術文化と観光を架橋し、理論と実践を重視した分野横断的な地域活性化に資する研究を推進する。</p> <p>また、地域リサーチ&イノベーションセンターを中核とした産学官の協働関係・ネットワークを構築し、多様な主体との共同研究、受託研究を推進し、研究成果を広く国内外に発信する。</p> <p>③ 地域の発展・繁栄及び新たな国際交流の推進に貢献する大学</p> <p>地域の企業・団体、行政、地域住民、金融機関等多様な主体と協働し、イノベーション機能を発揮するために、地域のプラットフォーム拠点を形成することで、地域の活性化に貢献する。</p> <p>また、大学の特長を生かした実践講座や小中高大連携、劇場等を活用した県民の新たな学びの提供を行うとともに、海外大学との協定や国際的な芸術祭での実習を通じた地域の国際交流に貢献する。</p>	

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標</p> <p>1 兵庫県立大学</p> <p>(1) 国内外で自立し活躍する次代を担うリーダーを育成する大学</p>	<p>第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 兵庫県立大学</p> <p>(1) 教育に関する措置</p> <p>～国内外で自立し活躍する次代を担うリーダーを育成する大学～</p>	<p>第2 教育、研究及び社会貢献に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 兵庫県立大学</p> <p>(1) 教育に関する措置</p> <p>～国内外で自立し活躍する次代を担うリーダーを育成する大学～</p>	
<p>ア グローバル社会で活躍できる人材の育成</p> <p>グローバル社会の到来など急速な社会経済の変化に対応し活躍できるリーダー育成をめざし、英語コミュニケーション能力に加え、自らの考えを積極的に発信し、広い視野を持って新しい価値を創造できる能力の養成に向けた教育を推進する。</p> <p>また、海外留学、海外からの留学生や研究者の受入推進など、国際交流の充実を図る。</p> <p>イ 地域のニーズに応える専門人材の育成</p> <p>公立大学として地域の特色を生かした教育の推進や社会人の学び直しへの支援などにより、地域課題の解決と地域の活性化に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>ア グローバル社会で活躍できる人材の育成</p> <p>①〔全学的なグローバル教育の推進〕</p> <p>全ての科目を英語で学び専門の学位（経済学）を取得するグローバルビジネスコース、実践的な英語コミュニケーション力やグローバルリーダーとなるための素養・能力を身につける副専攻のグローバルリーダー教育プログラム（GLEP）等を中心として、国際的課題に対応できるコミュニケーション力を有した人材を育成する。</p> <p>また、学生の自律的かつ継続的な英語学習を支援する取組を全学的に推進する。</p> <p>②〔海外留学の促進と留学生等の受入の拡大〕</p> <p>海外の大学との学術交流協定の締結を積極的に推進し、海外インターンシップや海外語学研修等、学生の更なる海外留学を促進する。</p> <p>また、国際学生寮に設置する国際交流センターにおける教育・交流プログラムの充実を図る等、留学生や外国人研究者の受入に配慮し、留学生等の受入の拡大に努める。</p> <p>イ 地域のニーズに応える専門人材の育成</p> <p>③〔地域の特色を生かした連携教育の推進〕</p> <p>兵庫の地域課題を体系的に学習し、地域と協働して実践的に活躍する力を育成する副専攻の地域創生人材教育プログラムや、防災マインドを持ち、被災地や地域社会で役立つ現場力や実践力を育成する副専攻の防災リーダー教育プログラムをはじめ、地域の課題を解決し、地域や社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>④〔大学院における専門教育の充実〕</p> <p>大学院において、減災復興リーダーや災害看護リーダーの育成に努める等、高い専門性や特色ある学問領域での識見を持ち、社会の課題に挑戦的に取り組む幅広い教養を持った高度な専門人材の育成を推進する。また、<u>社会人を対象に大学院における学び直しの機会を提供するリカレント教育の充実を図る。</u></p>	<p>ア グローバル社会で活躍できる人材の育成</p> <p>①〔全学的なグローバル教育の推進〕</p> <p>全ての科目を英語で学び専門の学位（経済学）を取得するグローバルビジネスコース、実践的な英語コミュニケーション力やグローバルリーダーとなるための素養・能力を身につける副専攻のグローバルリーダー教育プログラム（GLEP）等を中心として、国際的課題に対応できるコミュニケーション力を有した人材を育成する。</p> <p>また、学生の自律的かつ継続的な英語学習を支援する取組を全学的に推進する。</p> <p>②〔<u>ポストコロナを見据えた国際交流の構築と高度外国人材の育成</u>〕</p> <p>海外の大学との学術交流協定の締結を積極的に推進し、海外インターンシップや海外語学研修等、学生の更なる海外留学を促進するとともに、<u>ICTを用いたオンラインによる連携・交流等、ポストコロナを見据えた新たな国際交流のスキームを構築し、グローバル社会で活躍できる人材の育成を推進する。</u></p> <p>また、国際学生寮に設置する国際交流センターにおける教育・交流プログラムの充実を図る等、留学生や外国人研究者の受入に配慮し、留学生等の受入の拡大に努め、<u>日本や母国でグローバルに活躍できる高度外国人材の育成を推進する。</u></p> <p>イ 地域のニーズに応える専門人材の育成</p> <p>③〔地域の特色を生かした連携教育の推進〕</p> <p>兵庫の地域課題を体系的に学習し、地域と協働して実践的に活躍する力を育成する副専攻の地域創生人材教育プログラムや、防災マインドを持ち、被災地や地域社会で役立つ現場力や実践力を育成する副専攻の防災リーダー教育プログラムをはじめ、地域の課題を解決し、地域や社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>④〔<u>大学院における専門教育・リカレント教育の充実</u>〕</p> <p>大学院において、減災復興リーダーや災害看護リーダーの育成に努める等、高い専門性や特色ある学問領域での識見を持ち、社会の課題に挑戦的に取り組む幅広い教養を持った高度な専門人材の育成を推進する。また、<u>グリーン・トランスフォーメーション（GX）、デジタルトランスフォーメーション（DX）等の産業界や地域のニーズに応えるリカレント教育プログラムの開発と実施拠点整備を進め、社会人を対象とした大学院における高度なリカレント教育の充実を図ることにより、グリーン社会・デジタル社会で活躍できる専門人材を育成する。</u></p>	<p>観点① 項目名変更 取組内容の 追記</p> <p>観点② 記載の変更 ・追加</p>

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>ウ 高度な専門性を有する人材の育成 第4次産業革命の進展や超スマート社会（Society5.0）の到来など、社会全体がパラダイムシフトに直面する中、人工知能（AI）やビッグデータ等の最先端技術をはじめとする高度な専門知識を有する人材を育成する。 さらに、学部との接続や、経済、経営系及び情報系大学院の再編など、大学院改革をはじめとする教育研究組織の見直しを行う。</p>	<p>ウ 高度な専門性を有する人材の育成 ⑤〔社会の変化に的確に対応した大学院改革等の検討と推進〕 急速なグローバル化や高度情報化社会の進展等、社会の変化に的確に対応し、魅力ある教育研究を進めるため、経済・経営系大学院や情報系大学院、理学系大学院等について一体的な改革を検討し、改革を着実に進めていく。 <u>また、学部・学科についても、常に時代に即応した再編等を検討する。</u> ⑥〔国際商経学部・社会情報科学部の開設と充実〕 平成31年4月に開設した国際商経学部と社会情報学部において、カリキュラムポリシーに基づく教育を着実に推進するとともに、グローバル化やICT等の日々の進展も踏まえながら、常に教育内容の充実を図り、社会を変革できる人材を育成する。</p>	<p>ウ 高度な専門性を有する人材の育成 ⑤〔社会の変化に的確に対応した大学院改革等の検討と推進〕 急速なグローバル化や高度情報化社会の進展等、社会の変化に的確に対応し、魅力ある教育研究を進めるため、経済・経営系大学院や情報系大学院、理学系大学院等について一体的な改革を検討し、改革を着実に進めていく。 ⑥〔社会情報科学部の充実と時代に即応した学部改編等の検討〕 <u>平成31年4月に開設した社会情報学部では、令和3年4月に開設の情報科学研究科と連携のうえ、教育内容の更なる充実を図り、社会を変革できる人材を育成する。</u> <u>また、他学部においても国際社会で活躍するグローバルリーダー等、社会を牽引する次世代リーダーの育成強化に向け、常に時代に即応した学部・学科の改編等を検討する。</u></p>	<p>観点③ 記載の変更</p> <p>現行⑤から移動。記載を変更</p>
<p>エ 総合大学の強みを生かした幅広い知識を有する人材の育成 技術革新をはじめ、社会、経済が激しく変化する時代に活躍する人材が求められていることを踏まえ、兵庫県立大学の総合力を生かした学部横断の教育を推進することで、専門性に加えて学部の枠を超えた幅広い知識を備え、創造力を発揮できる人材を育成する。</p>	<p>エ 総合大学の強みを生かした幅広い知識を有する人材の育成 ⑦〔全学共通教育の充実〕 創基100周年ビジョンに掲げる基本方向「社会から信頼され評価される、世界水準の大学」の実現に向け、全ての学生にとって必要な幅広い視野と教養を身につけ、豊かな人間性の涵養と課題探求能力の向上に資する教育を実施する。 ⑧〔学部横断教育の推進〕 学際的な教育活動を促進し、学問的な視野を広げ、幅広い教養を兼ね備えた創造力のある人材を育成するため、総合大学の強みを生かし、学際的・複合的な専門分野において他学部科目を履修できる学修環境の整備を検討する。 ⑨〔学部と独立系大学院等の連携の推進〕 各学部と独立系大学院等との共同研究の実施等を通じて、学生・教職員等の一体感の醸成を図るとともに、学部や研究科、キャンパスの枠を超えた教育活動の連携・交流を推進する。</p>	<p>エ 総合大学の強みを生かした幅広い知識を有する人材の育成 ⑦〔教養教育の充実〕 創基100周年ビジョンに掲げる基本方向「社会から信頼され評価される、世界水準の大学」の実現に向け、<u>幅広い視野と教養を基盤とした豊かな人間性と課題探求能力を持った人材を育成するため、教養教育プログラムを改編するとともに新たな実施体制を構築し、教養教育の充実を図る。</u> <u>教養教育では、環境・エネルギー等のGX関連や数理・データサイエンス・AI、グローバル関連等の講義を通じて、時代のニーズに即した多様な知識やグローバルリテラシーの習得を図り、国際社会や地域社会で活躍できる創造力と自律性を有する人材を育成する。</u> ⑧〔学部横断教育及び独立系大学院等との連携の推進〕 学際的な教育活動を促進し、学問的な視野を広げ、幅広い教養を兼ね備えた創造力のある人材を育成するため、総合大学の強みを生かし、学際的・複合的な専門分野において他学部科目を履修できる学修環境の整備を検討する。加えて、各学部と独立系大学院等との共同研究の実施等を通じて、学生・教職員等の一体感の醸成を図るとともに、学部や研究科、キャンパスの枠を超えた教育活動の連携・交流を推進する。</p>	<p>観点④ 項目名変更 記載の変更・追加</p> <p>現行⑧⑨を統合</p>
<p>オ 人材育成に向けた教育システムの充実 (7) 時代の変化に対応した人材育成の仕組みづくり 兵庫県立大学がめざす教育、研究を達成するため、自ら点検及び評価を行い、その評価結果を改善につなげるPDCAサイクルが適切に機能</p>	<p>オ 人材育成に向けた教育システムの充実 (7) 時代の変化に対応した人材育成の仕組みづくり</p>	<p>オ 人材育成に向けた教育システムの充実 (7) 時代の変化に対応した人材育成の仕組みづくり 新⑨〔ポストコロナにおける新たな教育手法の確立〕 <u>コロナ禍におけるオンライン授業の経験を活かし、対面授業とオンライン授業の双方の利点を取り入れたベストミックスによる教育を構築し、ポストコロナ（ニューノーマル）における新たな教育手法を確立する。</u></p>	<p>観点⑤ 新規項目</p>

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>するよう、継続的に教育システムを見直す。</p> <p>また、国の進める高大接続改革を踏まえながら、兵庫県立大学の新たな入試制度を導入する。</p> <p>(イ) 多様な学生のニーズに的確に対応した支援の実施</p> <p>学生が安心して勉学に取り組み、社会に有為な職業人として成長できるよう、学生生活や就職に対し、様々な方法で支援する。</p> <p>さらに、多様化する学生のニーズについても引き続き的確に対応する。</p>	<p>⑩【<u>教学 I R の実施による教育改革の推進</u>】</p> <p>全学機構を中心として、各種教学データを多角的に分析する教学 I R を実施し、教育課程の体系化や教育方法の改善に努める等、社会から求められる県立大学を目指した教育改革を推進する。</p> <p>⑪【<u>優秀な学生の確保と大学入試改革の推進</u>】</p> <p>明確な入学者受入方針（アドミッションポリシー）を掲げ、<u>優秀な学生の確保に努める</u>とともに、学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）について、多面的・総合的に評価する入試制度の導入を図る。また、多様な入試制度にも対応できる体制の整備を進める。</p> <p>(イ) 多様な学生のニーズに的確に対応した支援の実施</p> <p>⑫【<u>多様なニーズに対応した学生生活の支援</u>】</p> <p>学生の心の悩み・ハラスメント等に対応する相談支援体制を強化するほか、経済的支援が必要な学生に対する授業料免除制度の見直しを図る等、学生生活に関する計画的な実態調査の結果も踏まえ、学生の多様なニーズに対応した制度を検討し、充実した学生生活を支援する。</p> <p>⑬【<u>総合的なキャリア形成及び就職支援の強化</u>】</p> <p>入学時から一貫したキャリア教育を推進し、将来の進路選択やキャリア設計に対する意識の醸成を図る。また、各キャンパスキャリアセンターによる支援を充実させるほか、インターンシップへの派遣、県内を中心とした魅力ある企業の情報発信、第二新卒者等への就職支援等、総合的なキャリア形成・就職支援の強化を図る。</p> <p>⑭【<u>障がい学生等に対する支援体制の整備</u>】</p> <p>障がいの有無、性別・年齢・国籍の相違等に対し、学生・教職員の意識啓発・理解促進を進めるとともに、支援を要する学生への支援体制の整備に努め、全学的にダイバーシティを推進する。</p> <p>⑮【<u>学術情報環境の充実</u>】</p> <p>情報処理教育をはじめとした学術情報環境の充実を図るため、情報システムの運営管理体制の整備・一元化に取り組む。</p>	<p>⑩【<u>教学 I R の実施による教育改革の推進</u>】</p> <p>全学機構を中心として、各種教学データを多角的に分析する教学 I R を実施し、教育課程の体系化や教育方法の改善に努める等、社会から求められる県立大学を目指した教育改革を推進する。</p> <p>⑪【<u>多様な学生の受入促進と大学入試改革の推進</u>】</p> <p>明確な入学者受入方針（アドミッションポリシー）を掲げ、<u>理工系女子学生、外国人留学生、社会人学生等の多様な学生の受入を促進する</u>とともに、学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）について、多面的・総合的に評価する入試制度の導入を<u>図り、優秀な学生の確保に努める</u>。また、多様な入試制度にも対応できる体制の整備を進める。</p> <p>(イ) 多様な学生のニーズに的確に対応した支援の実施</p> <p>⑫【<u>多様なニーズに対応した学生生活の支援</u>】</p> <p>学生の心の悩み・ハラスメント等に対応する相談支援体制を強化するほか、学生の多様なニーズに対応した制度を検討し、充実した学生生活を支援する。また、障がいの有無、性別・年齢・国籍の相違等に対し、学生・教職員の意識啓発・理解促進を進めるとともに、支援を要する学生への支援体制の整備に努め、全学的にダイバーシティを推進する。</p> <p>⑬【<u>総合的なキャリア形成及び就職支援の強化</u>】</p> <p>入学時から一貫したキャリア教育を推進し、将来の進路選択やキャリア設計に対する意識の醸成を図る。また、各キャンパスキャリアセンターによる支援を充実させるほか、インターンシップへの派遣、県内を中心とした魅力ある企業の情報発信、第二新卒者等への就職支援等、総合的なキャリア形成・就職支援の強化を図る。</p> <p>新⑭【<u>起業マインドの養成及びスタートアップ支援教育の推進</u>】</p> <p><u>学生の起業マインドを養成する効果的な教育プログラムを確立するとともに起業にかかるスタートアップ支援教育を推進し、社会に新たな価値を創出できる人材を育成する。</u></p> <p>⑮【<u>学術情報環境の充実</u>】</p> <p>情報処理教育をはじめとした学術情報環境の充実を図るため、情報システムの運営管理体制の整備・一元化に取り組む。</p>	<p>観点⑥ 項目名変更 記載の変更</p> <p>現行⑫⑭を 統合</p> <p>観点⑦ 新規項目</p> <p>⑫に統合</p>

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>(ウ) 中高大連携の推進</p> <p>附属中学校、高等学校の6年間を一体的に捉えた中高一貫教育など、中高連携の充実、強化を図る。</p> <p>加えて、附属学校における兵庫県立大学教員による連携授業など、中高大連携教育の充実、強化に取り組む。</p>	<p>(ウ) 中高大連携の推進</p> <p>⑩〔中高大連携教育及び附属中学・附属高校の教育課程の充実〕</p> <p>附属中学・附属高校の利点を最大限に発揮するため、学部・研究科が有する教育研究資源を活用した中高大連携教育の充実を図るとともに、中高一貫教育の優位性を生かした更なる特色化や学力の向上に資する教育課程の構築を検討する。</p>	<p>(ウ) 中高大連携の推進</p> <p>⑩〔中高大連携教育及び附属中学・附属高校の教育課程の充実〕</p> <p>附属中学・附属高校の利点を最大限に発揮するため、学部・研究科が有する教育研究資源を活用した中高大連携教育の充実を図るとともに、中高一貫教育の優位性を生かした更なる特色化や学力の向上に資する教育課程の構築を検討する。</p>	

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>(2) 次代を切り拓く先導的・創造的な研究を推進する大学</p>	<p>(2) 研究に関する措置 ～次代を切り拓く先導的・創造的な研究を推進する大学～</p>	<p>(2) 研究に関する措置 ～次代を切り拓く先導的・創造的な研究を推進する大学～</p>	
<p>ア 高度な研究基盤を活用した先端研究の推進</p> <p>SPring-8、ニュースバル、スーパーコンピュータ「富岳」などの高度な研究基盤や、金属新素材研究センター、先端医療工学研究所などの新たな研究拠点を活用し、将来の社会ニーズも踏まえ、特色ある最先端・異分野融合の研究をさらに推進する。</p> <p>また、論文数の増に加え、査読付きや引用度の高い論文など質の向上を図るとともに、その研究成果についても、広く世界へ発信する取組を推進する。</p>	<p>ア 高度な研究基盤を活用した先端研究の推進</p> <p>⑰【先端医療工学研究所を基盤とした革新的な医工学の研究開発】 先端医工学研究センターにおける研究開発の蓄積を踏まえて、令和4年4月に開設する先端医療工学研究所を医産学連携の拠点とし、医療現場と密接に関連して高度な教育研究を行うとともに、多様な学術分野と医療を融合させることにより先進的な技術開発等に取り組む。</p> <p>⑱【金属新素材研究センターを拠点とした新素材の研究開発】 金属素材製造・加工企業が集積し、「ひょうごメタルベルト」を形成する地域の特徴を生かすため、付加価値の高い新素材の研究・開発を行う拠点として、県立工業技術センターのサテライト『金属新素材研究センター』を新たに整備し、硬度・耐熱性・微細加工性に優れた金属粉末や3D造形技術の実現を目指す。</p> <p>⑲【ニュースバル等の多様な研究基盤を生かした先導的な研究の推進】 本学が有するニュースバル（軟X線）、西はりま天文台「なゆた望遠鏡」や、SPring-8（硬X線）、SACLA（X線自由電子レーザー）、スーパーコンピュータ「富岳」等、県下に集積する多様な研究基盤を生かし、国内外の大学や企業等とも連携して、未来を創造する先導的・創造的な研究を推進する。</p> <p>⑳【全学的な異分野融合の推進】 特色ある研究領域や先端的な研究施設を有し、県下全域に拠点を持つ総合大学としての強みを生かし、外部人材の活用も含めて、各部局の枠を超えた研究者の交流を促進するとともに、分野横断・学際的研究プロジェクトを推進する。特に、本学は特徴的な情報系の組織を有するため、ICTの分野において全学的な連携を強化し、研究の深化を図る。</p> <p>㉑【学学連携の推進によるイノベーションの創出】 地域の国公立大学や高等専門学校等と、設置形態を超えて、各教育機関の強みを生かした組織的な連携を深め、共同研究や産学連携活動等、社会的課題の解決に取り組み、イノベーションを創出する。</p> <p>㉒【研究活動の活性化による研究水準の更なる向上】 全学的な研究水準の更なる向上を目指し、査読付き論文数等の研究成果について目標を定めて取り組むほか、附置研究所の更なる発展に向け、改編も視野に見直しを検討する等、研究活動の活性化を図る。</p>	<p>ア 高度な研究基盤を活用した先端研究の推進</p> <p>⑰【先端医療工学研究所を基盤とした革新的な医工学の研究開発】 先端医工学研究センターにおける研究開発の蓄積を踏まえて、令和4年4月に開設する先端医療工学研究所を医産学連携の拠点とし、医療現場と密接に関連して高度な教育研究を行うとともに、多様な学術分野と医療を融合させることにより先進的な技術開発等に取り組む。</p> <p>⑱【金属新素材研究センターを拠点とした新素材の研究開発】 金属素材製造・加工企業が集積し、「ひょうごメタルベルト」を形成する地域の特徴を生かすため、付加価値の高い新素材の研究・開発を行う拠点として、県立工業技術センターのサテライト『金属新素材研究センター』を新たに整備し、硬度・耐熱性・微細加工性に優れた金属粉末や3D造形技術の実現を目指す。</p> <p>⑲【ニュースバル等の多様な研究基盤を生かした先導的な研究の推進】 本学が有するニュースバル（軟X線）、西はりま天文台「なゆた望遠鏡」や、SPring-8（硬X線）、SACLA（X線自由電子レーザー）、スーパーコンピュータ「富岳」等、県下に集積する多様な研究基盤を生かし、国内外の大学や企業等とも連携して、未来を創造する先導的・創造的な研究を推進する。</p> <p>⑳【全学的な異分野融合の推進】 特色ある研究領域や先端的な研究施設を有し、県下全域に拠点を持つ総合大学としての強みを生かし、外部人材の活用も含めて、各部局の枠を超えた研究者の交流を促進するとともに、分野横断・学際的研究プロジェクトを推進する。特に、本学は先進的な情報系の教育・研究組織を有するため、情報セキュリティ、デジタルヘルス、データ駆動型科学等の分野での全学的な連携や、GXの進展を踏まえた水素エネルギー共同研究センター、政策科学研究所、高度産業科学技術研究所及び関係研究科の共同によるエネルギー分野の研究を進める。</p> <p>新㉑【SDGsの達成に寄与する学際的・創造的研究の推進】 本学の強みを生かした「全県キャンパス」で実践するGX、エネルギー、生物多様性、減災等の多種多様な研究をSDGsの枠組みで深化・発展させ、全学的な連携を図りながら、SDGsの達成に寄与する異分野融合による学際的・創造的研究を推進する。加えて、GX、カーボンニュートラル、SDGsの推進に資する教員の研究活動を重点的に支援し、グリーン社会の実現、SDGsの達成に寄与する研究活動の活性化を図る。</p> <p>㉒【学学連携の推進によるイノベーションの創出】 地域の国公立大学や高等専門学校等と、設置形態を超えて、各教育機関の強みを生かした組織的な連携を深め、共同研究や産学連携活動等、社会的課題の解決に取り組み、イノベーションを創出する。</p> <p>㉓【研究活動の活性化による研究水準の更なる向上】 全学的な研究水準の更なる向上を目指し、査読付き論文数等の研究成果について目標を定めて取り組むほか、附置研究所の更なる発展に向け、改編も視野に見直しを検討する等、研究活動の活性化を図る。</p>	<p>記載の変更 ・追加</p> <p>観点⑧ 新規項目</p>

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>イ 地域資源を活用した研究の推進 地域の「知の拠点」として、関係学部、研究科、附置研究所等が連携し、地域資源を活用しながら、将来にわたる地域活力維持の方策など、地域に貢献する研究を推進する。</p> <p>ウ 兵庫の先進的な取組を活用した研究の推進 災害看護や減災復興など、兵庫が先導してきた取組をさらに国内外に発信し次世代に伝えるため、国内外の大学、研究機関等と連携しながら、実践的な研究を引き続き推進する。</p>	<p>イ 地域資源を活用した研究の推進 ㉓〔県内各地の地域資源を活用した研究の推進〕 コウノトリの郷公園をはじめ、人と自然の博物館、森林動物研究センター、淡路景観園芸学校、先端食科学研究センター等、県内各地に分散する地域資源を活用した研究施設を拠点として、県や地元自治体とも連携しながら、地域課題の解決に向けた研究を推進する。</p> <p>ウ 兵庫の先進的な取組を活用した研究の推進 ㉔〔防災に関する研究の推進〕 減災復興政策研究科を拠点として、国内外の研究機関とも連携し、減災復興に関する実践的な研究活動を推進する。 また、災害健康危機管理WHO協力センターでもある地域ケア開発研究所においては、保健医療分野や災害・防災分野における健康維持活動に関する研究を推進する。 ㉕〔看護に関する研究の推進〕 医療情報のビッグデータ解析を導入し、保健行動の改善をもたらして医療費の抑制を図る等、新たな看護のアプローチ方法を開発し、効率的で段階的な医療・看護の提供に結びつける。</p>	<p>イ 地域資源を活用した研究の推進 ㉔〔県内各地の地域資源を活用した研究の推進〕 コウノトリの郷公園をはじめ、人と自然の博物館、森林動物研究センター、淡路景観園芸学校、先端食科学研究センター等、県内各地に分散する地域資源を活用した研究施設を拠点として、県や地元自治体とも連携しながら、地域課題の解決に向けた研究を推進する。</p> <p>ウ 兵庫の先進的な取組を活用した研究の推進 新㉕〔グリーントランスフォーメーション（GX）に関する研究の推進〕 「水素社会の推進」等の兵庫県や産業界が進める先進的な取組と連携・協力しながら、水素エネルギー利用や二次電池の開発等、基礎研究から社会実装まで幅広くGXに関する研究を推進する。特に、兵庫県等が推進する水素社会の実現に積極的に貢献するため、水素エネルギー研究の新たな拠点設置に向けた取組を進める。</p> <p>㉖〔減災復興・災害看護に関する研究の推進〕 減災復興政策研究科を拠点として、国内外の研究機関とも連携し、減災復興に関する実践的な研究活動を推進する。 また、災害健康危機管理WHO協力センターでもある地域ケア開発研究所においては、保健医療分野や災害・防災分野における健康維持活動に関する研究を推進する。</p>	<p>観点⑨ 新規項目</p> <p>項目名変更</p> <p>㉔の項目に記載を移動</p>

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>(3) 兵庫の強みを生かし、地域の未来の活力創出に貢献する大学</p>	<p>(3) 社会貢献に関する措置 ～兵庫の強みを生かし、地域の未来の活力創出に貢献する大学～</p>	<p>(3) 社会貢献に関する措置 ～兵庫の強みを生かし、地域の未来の活力創出に貢献する大学～</p>	
<p>ア 未来社会を先導する産学官連携の推進</p> <p>産学連携・研究推進機構の機能強化やニュースバル等の産業利用の促進などに取り組み、兵庫が強みを持つ環境・エネルギーや健康・医療、航空機、ロボットなどの分野を生かし、人工知能（AI）等の新たな成長分野にも挑戦しながら、企業、社会のニーズに応え、未来社会を先導する産学官連携を加速化する。</p> <p>また、少子高齢化が進行し、人生 100 年時代が到来する中、自治体や医療機関、企業、国際機関をはじめとする関係団体等との連携のもと、看護ケアの質的向上を図るなど、住民が健康で安心して生活できる社会の実現に向けた取組を推進する。</p>	<p>ア 未来社会を先導する産学官連携の推進</p> <p>②⑥〔産学官連携活動の推進〕</p> <p>神戸地区に、ICTをはじめとした都市型産業との連携拠点を新たに設けるほか、産学連携・研究推進機構が中心となって、企業、民間団体、自治体、産業支援機関（新産業創造研究機構[NIRO]、ひょうご産業活性化センター、商工会議所・商工会等）との連携を強化し、地元産業界と一体となって新産業の創出や県内産業の活性化に取り組む。</p> <p>②⑦〔成長分野を支援する中核的機能の充実〕</p> <p>データ社会の到来に合わせ、総合大学の強みを生かし、データの収集・解析から活用まで学際的に、AI・ビッグデータ・IoT等の成長分野を支援する中核的機能の充実を図るとともに、ベンチャー企業との連携、インキュベーションセンターの活用等により、起業レベルから既存産業の高度化まで、幅広い産業支援を行う。</p> <p>②⑧〔ニュースバル等の産業利用・産学共同研究の促進〕</p> <p>極端紫外線から軟X線領域に優位性を持つニュースバルの特徴を生かすとともに、県有ビームラインを含むSPring-8との相互連携を強化し、産業利用・産学共同研究を促進する。</p> <p>②⑨〔知的財産の適切な保護及び研究成果の公表〕</p> <p>教職員、学生等による知的財産の積極的な取得・実用化を促進するとともに、知的財産ポリシーに基づき、適切に保護・管理を行う。</p> <p>また、先導的・創造的な研究成果を広く公表するとともに、その移転・実用化に取り組む。</p> <p>③⑩〔県立病院等と連携した看護ケアの質的向上〕</p> <p>看護サービスの質評価研究の成果を生かして、医療施設等において看護ケアの質的向上や目標管理を支援し、地域医療の進展に貢献する。また、周産期ケア研究センターでは、県内助産師の技術向上等に努め、安心安全な周産期を支える。</p>	<p>ア 未来社会を先導する産学官連携の推進</p> <p>②⑦〔産学官連携活動の推進〕</p> <p>神戸地区に、ICTをはじめとした都市型産業との連携拠点を新たに設けるほか、産学連携・研究推進機構が中心となって、企業、民間団体、自治体、産業支援機関（新産業創造研究機構[NIRO]、ひょうご産業活性化センター、商工会議所・商工会等）との連携を強化し、地元産業界と一体となって新産業の創出や県内産業の活性化に取り組む。</p> <p>②⑧〔成長分野を支援する中核的機能の充実〕</p> <p>データ社会の到来に合わせ、総合大学の強みを生かし、データの収集・解析から活用まで学際的に、AI・ビッグデータ・IoT等の成長分野を支援する中核的機能の充実を図るとともに、ベンチャー企業との連携、インキュベーションセンターの活用等により、起業レベルから既存産業の高度化まで、幅広い産業支援を行う。</p> <p>とりわけ、グリーン・デジタル等の成長分野については、本学が有するリソースや知見を活用した幅広い産業支援に取り組むとともに、共同研究や研究成果の実用化等を目指した連携を推進する。</p> <p>②⑨〔ニュースバル等の産業利用・産学共同研究の促進〕</p> <p>極端紫外線から軟X線領域に優位性を持つニュースバルの特徴を生かすとともに、県有ビームラインを含むSPring-8との相互連携を強化し、産業利用・産学共同研究を促進する。</p> <p>③⑩〔知的財産の適切な保護及び研究成果の公表〕</p> <p>教職員、学生等による知的財産の積極的な取得・実用化を促進するとともに、知的財産ポリシーに基づき、適切に保護・管理を行う。</p> <p>また、先導的・創造的な研究成果を広く公表するとともに、その移転・実用化に取り組む。</p> <p>③⑪〔県立病院等と連携した看護ケアの質的向上〕</p> <p>看護サービスの質評価研究の成果を生かして、医療施設等において看護ケアの質的向上や目標管理を支援し、地域医療の進展に貢献する。また、周産期ケア研究センターでは、県内助産師の技術向上等に努め、安心安全な周産期を支える。</p> <p>新③⑫〔医産学看の連携の推進〕</p> <p>先端医療工学研究所に研究交流サロン「イノベーションサロン」を開設し、医師・看護師・栄養士等の医療関係者のニーズと本学や企業が有するシーズのマッチングを図り、医産学看が連携した共同研究・共同事業等を推進する。</p>	<p>記載を追加</p> <p>観点⑩ 新規項目</p>

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>イ 大学が有する資源の地域社会における活用 兵庫県立大学が有する教員をはじめとする様々な資源を活用し、地域創生をはじめとした地域の課題解決や新たな地域づくりなどについて、県施策とも連携しながら積極的に取り組む。</p> <p>ウ 次世代の兵庫を担う人材の県内定着など地域の期待に応える取組の推進 新規学卒者の県内就職率向上や第二新卒者のUターンニーズへの対応等による次世代の兵庫を担う人材の県内定着促進など、兵庫県立大学に対する地域の期待に応える取組を引き続き推進する。</p>	<p>イ 大学が有する資源の地域社会における活用 ⑳〔県民ニーズに応える公開講座等の充実〕 多様な学部・研究科等を有する特色や、県下全域に広がる研究資源を生かし、県民ニーズに応える各種公開講座を開催するほか、社会人や高齢者を対象とした学習講座を幅広く提供する。</p> <p>㉑〔自治体・地域団体との連携の強化〕 自治体や地域団体等からの相談に応じて、地域創生に資する人材・情報・技術を大学内外でネットワーク化し、地域連携事業の充実により地域の核となる大学づくりを発展させる。</p> <p>ウ 次世代の兵庫を担う人材の県内定着など地域の期待に応える取組の推進 ㉒〔県内就職・地元定着を促進する取組の充実強化〕 本学で学んだ外国人留学生を含め、新規学卒者の県内就職の促進に努めるほか、第二新卒者のUターンニーズに適切に対応し、地元への更なる定着を図るため、県内大学・地元企業・地元自治体等と連携し、インターンシップ事業・人材マッチング事業等の充実強化に取り組む。</p>	<p>イ 大学が有する資源の地域社会における活用 ㉓〔県民ニーズに応える公開講座等の充実〕 多様な学部・研究科等を有する特色や、県下全域に広がる研究資源を生かし、県民ニーズに応える各種公開講座を開催するほか、社会人や高齢者を対象とした学習講座を幅広く提供する。特に、GX、DX、SDGs等の時代のニーズを的確に捉えた公開講座の幅広い提供に努める。</p> <p>㉔〔自治体・地域団体との連携の強化〕 自治体や地域団体等からの相談に応じて、地域創生に資する人材・情報・技術を大学内外でネットワーク化し、地域連携事業の充実により地域の核となる大学づくりを発展させる。</p> <p>ウ 次世代の兵庫を担う人材の県内定着など地域の期待に応える取組の推進 ㉕〔県内就職・地元定着を促進する取組の充実強化〕 本学で学んだ外国人留学生を含め、新規学卒者の県内就職の促進に努めるほか、第二新卒者のUターンニーズに適切に対応し、地元への更なる定着を図るため、県内大学・地元企業・地元自治体等と連携し、インターンシップ事業・人材マッチング事業等の充実強化に取り組む。</p>	<p>記載を追加</p>

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>2 芸術文化観光専門職大学 (1) 芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する専門職業人を育成する大学</p>	<p>2 芸術文化観光専門職大学 (1) 教育に関する措置 ～芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する専門職業人を育成する大学～</p>	<p>2 芸術文化観光専門職大学 (1) 教育に関する措置 ～芸術文化及び観光の双方の視点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する専門職業人を育成する大学～</p>	
<p>ア 芸術文化及び観光のマネジメント能力を有する専門職業人の育成 芸術文化及び観光の双方の視点を生かし、芸術文化及び観光に関するマネジメントを行う能力を有する専門職業人の育成をめざし、演劇的手法による対話的コミュニケーション能力を基礎として、合意形成を図りながら両分野の事業活動を推進できる能力の養成に向けた教育を推進する。</p> <p>イ 地域活性化に貢献する専門職業人の育成 地域社会をフィールドに、大学と企業・自治体等で課題認識を共有し、新たな価値の創造により、芸術文化の発展及び持続可能な観光の振興に繋げ、地域を活性化し、我が国に活力をもたらす専門職業人を育成する。</p> <p>ウ 世界に通じる専門職業人の育成 国際的に通用する芸術文化及び観光に関する専門的な知識・技能や語学力を兼ね備え、地域で生み出された芸術文化及び観光の新たな価値を世界に発信し得る、世界に通じる専門職業人を育成する。</p> <p>エ 人材育成に向けた教育システムの構築 (7) 芸術文化及び観光の双方の視点を培うカリキュラムの編成 芸術文化観光専門職大学が育成する専門職業人として必要となる知識・技能を身につけさせるため、芸術文化及び観光のいずれかを主となる専攻、他方を副と</p>	<p>ア 芸術文化及び観光のマネジメント能力を有する専門職業人の育成 ③4〔演劇的手法を取り入れた対話的コミュニケーション能力の養成〕 演劇やダンスのワークショップ等の実技と講義を交互に行う「コミュニケーション演習」を1年次の必修科目とし、対話的コミュニケーション能力を養成する。 また、1年次は全員が学生寮に入寮し、日常生活においても社会性と協働性を身に付け多様性を受入れるとともに、コミュニケーション能力を養成する。</p> <p>③5〔芸術文化及び観光のマネジメント能力の養成〕 芸術文化分野及び観光分野のいずれかを主となる専攻、他方を副となる専攻として、両分野を架橋する教育課程を編成し、双方の視点を生かして芸術文化と観光の事業活動を推進するための芸術文化マネジメント能力、観光マネジメント能力及び価値創造の能力を養成する。</p> <p>イ 地域活性化に貢献する専門職業人の育成 ③6〔地域を活性化し我が国に活力をもたらす人材の育成〕 芸術文化と観光の両分野を架橋した学びを推進し、その学びの意義を、学生・教員のみならず広く地域社会と共有し、地域と連携した教育を展開する。 また、地域社会をフィールドに、様々な主体と連携を図りながら多彩な実習プログラムを展開し、地域課題の解決を推進することで、地域の魅力を再発見、再認識し、地域での新たな事業を創出できる地域の担い手となる人材を育成する。</p> <p>ウ 世界に通じる専門職業人の育成 ③7〔実践的な語学教育と国際感覚の醸成〕 基礎的な英語能力を修得した上で、各職業分野で必要とされるキャリア英語など実践的な語学スキルを身に付ける。併せて、全ての学生が体験できる海外実習や海外語学研修を配置することで、国際感覚を醸成する。</p> <p>エ 人材育成に向けた教育システムの構築 (7) 芸術文化及び観光の双方の視点を培うカリキュラムの編成 ③8〔芸術文化及び観光の両分野を体系的に学ぶ教育課程の編成〕 芸術文化マネジメント能力、観光マネジメント能力及び価値創造の能力のそれぞれ基礎となる知識・技能を養成する「コア科目群」と、副となる専攻の中でキャリア形成上必要となる科目を分野を超えて学ぶ「クロスオーバー科目」を配置し、体系的に教育課程を編成することで、芸術文化及び観光の双方の視</p>	<p>ア 芸術文化及び観光のマネジメント能力を有する専門職業人の育成 ③6〔演劇的手法を取り入れた対話的コミュニケーション能力の養成〕 演劇やダンスのワークショップ等の実技と講義を交互に行う「コミュニケーション演習」を1年次の必修科目とし、対話的コミュニケーション能力を養成する。 また、1年次は全員が学生寮に入寮し、日常生活においても社会性と協働性を身に付け多様性を受入れるとともに、コミュニケーション能力を養成する。</p> <p>③7〔芸術文化及び観光のマネジメント能力の養成〕 芸術文化分野及び観光分野のいずれかを主となる専攻、他方を副となる専攻として、両分野を架橋する教育課程を編成し、双方の視点を生かして芸術文化と観光の事業活動を推進するための芸術文化マネジメント能力、観光マネジメント能力及び価値創造の能力を養成する。</p> <p>イ 地域活性化に貢献する専門職業人の育成 ③8〔地域を活性化し我が国に活力をもたらす人材の育成〕 芸術文化と観光の両分野を架橋した学びを推進し、その学びの意義を、学生・教員のみならず広く地域社会と共有し、地域と連携した教育を展開する。 また、地域社会をフィールドに、様々な主体と連携を図りながら多彩な実習プログラムを展開し、地域課題の解決を推進することで、地域の魅力を再発見、再認識し、地域での新たな事業を創出できる地域の担い手となる人材を育成する。</p> <p>ウ 世界に通じる専門職業人の育成 ③9〔実践的な語学教育と国際感覚の醸成〕 基礎的な英語能力を修得した上で、各職業分野で必要とされるキャリア英語など実践的な語学スキルを身に付ける。<u>また、英語以外の多言語教育を推進する。併せて、全ての学生が体験できる海外実習や海外語学研修の拡大や、海外との大学間協定に基づく教員・学生の交流を通じて、本学のグローバル展開を推進し、多様性を理解できるグローバル人材を養成する。</u></p> <p>エ 人材育成に向けた教育システムの構築 (7) 芸術文化及び観光の双方の視点を培うカリキュラムの編成 ④0〔芸術文化及び観光の両分野を体系的に学ぶ教育課程の編成〕 芸術文化マネジメント能力、観光マネジメント能力及び価値創造の能力のそれぞれ基礎となる知識・技能を養成する「コア科目群」と、副となる専攻の中でキャリア形成上必要となる科目を分野を超えて学ぶ「クロスオーバー科目」を配置し、体系的に教育課程を編成することで、芸術文化及び観光の双方の視</p>	<p>観点① 記載の変更</p>

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>なる専攻として、両分野を体系的に学ぶカリキュラムを構築し、学生の主体的な履修計画作成を支援する。</p> <p>(イ) 新たな学びの手法による実践力の養成 学年歴を4期に区切るクォーター制を導入し、講義形式の系統学修と、講義で得た専門知識を実習先で実践する経験学修を繰り返す「ラーニング・ブリッジング」の手法を取り入れて、学生の学びを深める。</p> <p>(ウ) 段階的かつ重層的に体系化した実践教育の展開 専門職大学制度の特長を生かし、実務家教員による授業や段階的かつ重層的に体系化した実習プログラムを構築し、学生のキャリア志向に応じて、理論に裏付けられた実践力を養成する。</p> <p>(I) 産業界と地域社会との連携 産業界と地域社会との連携による教育課程連携協議会を設置し、様々な主体からのニーズをカリキュラム編成に迅速かつ的確に反映させる。 また、産業構造の変化への対応も踏まえ、芸術文化及び観光の発展に繋がる知識・技能の修得にも柔軟に対応して、継続的に教育システムの見直しを行う。</p>	<p>点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する能力を養成する。 また、「コア科目群」には、芸術文化及び観光・経営の双方の教員が担当する「相互アプローチ科目」を配置し、両分野が密接に連携した教育を推進する。</p> <p>③⑨【卒業後の進路を見据えたアカデミックアドバイザー制の導入】 主となる専攻分野が分かれる2年次以降は、主となる専攻分野の教員を主担当、副となる専攻分野の教員を副担当として配置し、学生と教員が個別面談を行いながら履修計画を作成するアカデミックアドバイザー制度を導入し、きめ細やかな研究指導や進路支援を行う。</p> <p>(イ) 新たな学びの手法による実践力の養成 ④⑩【高度な実践力と豊かな創造性を育成する教育方法の導入】 クォーター制（学年歴を4期に区切る）を導入し、理論化・体系化された「系統学修」と現場での経験を通じた「実践学修」を交互に行うラーニング・ブリッジングにより、学生の学びを深化させる。 また、講義と、演習やグループ討議などのアクティブラーニング（能動的学修）を組み合わせ配置することで、知識・技能の定着を図る。</p> <p>(ウ) 段階的かつ重層的に体系化した実践教育の展開 ④⑪【実践的な実習カリキュラムの編成】 卒業単位の1/3以上を占める実習について、専門実務から企画運営・マネジメントに至るまで段階的に体系化した実践的な実習カリキュラムを編成することにより、質の高い専門職業人を育成する。 そのために、文化ホール・劇場、観光交通、旅行事業、旅館・ホテル、豊岡演劇祭等のイベントにおける隣地実務実習等を配置し、社会の現場で行われている業務を修得し、実践力を身に付ける。</p> <p>(I) 産業界と地域社会との連携 ④⑫【産業界・地域社会と連携した教育課程の編成及びキャリア支援の充実】 教育課程連携協議会及び地域リサーチ&イノベーションセンターにおいて、関係団体や市町と連携することで、産業界、金融界や地域社会のニーズを的確に捉え教育課程に反映させる。 また、キャリアサポートセンターにおいて、学生の将来ビジョン実現に向けた丁寧な学修支援、就職支援を一貫して行うとともに、芸術文化と観光の実践的な学修成果を生かすことができるよう、企業や団体、市町と連携を図り、幅広い進路選択肢を開拓し、就職支援を充実させる。</p>	<p>点を生かして地域の活力を創出し、社会に貢献する能力を養成する。 また、「コア科目群」には、芸術文化及び観光・経営の双方の教員が担当する「相互アプローチ科目」を配置し、両分野が密接に連携した教育を推進する。</p> <p>④①【卒業後の進路を見据えたアカデミックアドバイザー制の導入】 主となる専攻分野が分かれる2年次以降は、主となる専攻分野の教員を主担当、副となる専攻分野の教員を副担当として配置し、学生と教員が個別面談を行いながら履修計画を作成するアカデミックアドバイザー制度を導入し、きめ細やかな研究指導や進路支援を行う。</p> <p>新④②【完成年度後に向けた教育研究体制の構築】 <u>大学の設置計画を基本としつつ、ポストコロナを見据えたDXの推進やSDGsへの取組を加速させる等、社会情勢の変化に応じて教育課程の見直しを柔軟に行うとともに、独自性を高めたカリキュラムの編成や教員の配置等、新たな教育研究体制の構築に向けた検討を始める。</u> <u>また、学部教育の成果を進化させた教育の場として、大学院教育の必要性について検討を行う。</u></p> <p>(イ) 新たな学びの手法による実践力の養成 ④③【高度な実践力と豊かな創造性を育成する教育方法の導入】 クォーター制（学年歴を4期に区切る）を導入し、理論化・体系化された「系統学修」と現場での経験を通じた「実践学修」を交互に行うラーニング・ブリッジングにより、学生の学びを深化させる。 また、講義と、演習やグループ討議などのアクティブラーニング（能動的学修）を組み合わせ配置することで、知識・技能の定着を図る。</p> <p>(ウ) 段階的かつ重層的に体系化した実践教育の展開 ④④【実践的な実習カリキュラムの編成】 卒業単位の1/3以上を占める実習について、専門実務から企画運営・マネジメントに至るまで段階的に体系化した実践的な実習カリキュラムを編成することにより、質の高い専門職業人を育成する。 そのために、文化ホール・劇場、観光交通、旅行事業、旅館・ホテル、豊岡演劇祭等のイベントにおける隣地実務実習等を配置し、社会の現場で行われている業務を修得し、実践力を身に付ける。</p> <p>(I) 産業界と地域社会との連携 ④⑤【産業界・地域社会と連携した教育課程の編成及びキャリア支援の充実】 教育課程連携協議会及び地域リサーチ&イノベーションセンターにおいて、関係団体や市町と連携することで、産業界、金融界や地域社会のニーズを的確に捉え教育課程に反映させる。 また、キャリアサポートセンターにおいて、学生の将来ビジョン実現に向けた丁寧な学修支援、就職支援を一貫して行うとともに、芸術文化と観光の実践的な学修成果を生かすことができるよう、企業や団体、市町と連携を図り、幅広い進路選択肢を開拓し、就職支援を充実させる。</p>	<p>観点⑫ 新規項目</p>

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>(2) 芸術文化及び観光を架橋した地域活性化に資する研究を推進する大学</p>	<p>(2) 研究に関する措置 ～ 芸術文化及び観光を架橋した地域活性化に資する研究を推進する大学 ～</p>	<p>(2) 研究に関する措置 ～ 芸術文化及び観光を架橋した地域活性化に資する研究を推進する大学 ～</p>	
<p>ア 専門職大学の強みを生かし、地域活性化に資する研究活動の推進 芸術文化及び観光それぞれの研究を深化させるとともに、芸術文化及び観光を架橋した地域活性化に資する実践的な研究を推進する。</p> <p>イ 研究成果の社会への還元 産学官の協働関係・ネットワークを構築するとともに、共同研究、受託研究、知的財産の管理・活用等を進め、研究成果を広く国内外に発信し、社会に還元する。</p>	<p>ア 専門職大学の強みを生かし、地域活性化に資する研究活動の推進 ④③〔芸術文化と観光を架橋し、理論と実践を重視した研究の推進〕 本学の研究分野の特性や強みを生かし、芸術文化及び観光それぞれの研究を深化させるとともに、<u>芸術文化と観光を架橋し、理論と実践を重視した分野横断的研究を推進する。</u></p> <p>④④〔地域活性化に資する研究の推進〕 地域リサーチ&イノベーションセンターの活動に全教員が関わり、地域課題に対応する中で実践的な研究を推進する。 また、他大学との連携による共同研究や産学連携活動等によりイノベーションを創出する。</p> <p>イ 研究成果の社会への還元 ④⑤〔産学官の協働関係・ネットワークの構築〕 地域と伸びる大学として、地域リサーチ&イノベーションセンターを中核とした産学官の協働関係・ネットワークを構築し、多様な主体との連携による共同研究、受託研究を推進する。 また、学会、シンポジウムなどにおいて研究成果を積極的に発信し、社会に還元するとともに、本学の存在価値の向上に繋げる。</p>	<p>ア 専門職大学の強みを生かし、地域活性化に資する研究活動の推進 ④⑥〔芸術文化と観光を架橋し、理論と実践を重視した研究の推進〕 本学の研究分野の特性や強みを生かし、芸術文化及び観光それぞれの研究を深化させるとともに、<u>「芸術文化観光学」を新たな学問分野として確立させるため、紀要の編集や研究センターの設置、学会の創設等「芸術文化観光学」の研究を推進する。</u></p> <p>④⑦〔地域活性化に資する研究の推進〕 地域リサーチ&イノベーションセンターの活動に全教員が関わり、地域課題に対応する中で実践的な研究を推進する。 また、他大学との連携による共同研究や産学連携活動等によりイノベーションを創出する。</p> <p>イ 研究成果の社会への還元 ④⑥〔産学官の協働関係・ネットワークの構築〕 地域と伸びる大学として、地域リサーチ&イノベーションセンターを中核とした産学官の協働関係・ネットワークを構築し、多様な主体との連携による共同研究、受託研究を推進する。 また、学会、シンポジウムなどにおいて研究成果を積極的に発信し、社会に還元するとともに、本学の存在価値の向上に繋げる。</p>	<p>観点⑬ 記載の変更</p>
<p>(3) 地域の発展・繁栄及び新たな国際交流の推進に貢献する大学</p>	<p>(3) 社会貢献に関する措置 ～地域の発展・繁栄及び新たな国際交流の推進に貢献する大学～</p>	<p>(3) 社会貢献に関する措置 ～地域の発展・繁栄及び新たな国際交流の推進に貢献する大学～</p>	
<p>ア 大学が有する資源の地域社会における活用 芸術文化観光専門職大学が地域のシンクタンク、コンサルティング、イノベーション機能を発揮することでプラットフォーム拠点形成し、県施策と連携するとともに、市町や企業等とも協働しながら、芸術文化の発展及び持続可能な観光の振興に繋げ、地域活性化の好循環を実現し、地域創生の新しいモデルを県内外に発信する。</p>	<p>ア 大学が有する資源の地域社会における活用 ④⑥〔地域のイノベーションの創出と新たな地域創生モデルの構築〕 地域リサーチ&イノベーションセンターを中心に、企業・団体、行政、地域住民、金融機関等多様な主体と協働し、イノベーション機能を発揮することで、新たな事業創出や新規施策の展開等を図り、持続可能な地域活性化を実現する。 また、企業や団体で行う臨地実務実習やボランティア活動において、学生が地域と関わり、地域が自らの価値を再発見し発展につなげていくことで、地域創生の新しいモデルを構築する。</p>	<p>ア 大学が有する資源の地域社会における活用 ④⑨〔地域のイノベーションの創出と新たな地域創生モデルの構築〕 地域リサーチ&イノベーションセンターを中心に、企業・団体、行政、地域住民、金融機関等多様な主体と協働し、イノベーション機能を発揮することで、新たな事業創出や新規施策の展開等を図り、持続可能な地域活性化を実現する。 また、企業や団体で行う臨地実務実習やボランティア活動において、学生が地域と関わり、地域が自らの価値を再発見し発展につなげていくことで、地域創生の新しいモデルを構築する。 <u>新⑤⑩〔ポストコロナを見据えた地域連携事業の新たな展開〕</u> <u>企業・団体、行政、地域住民、金融機関等多様な主体と協働し、2025年に開催される大阪・関西万博や瀬戸内国際芸術祭の観光客を兵庫県・但馬に誘客する等、ポストコロナを見据えた新たな地域連携事業モデルを構築する。</u></p>	<p>観点⑭ 新規項目</p>

<p>第二期中期目標</p>	<p>第二期中期計画（現行）</p>	<p>第二期中期計画（変更案）</p>	
<p>イ 大学の長を生かした地域貢献の推進 教員の半数が実務家教員という芸術文化観光専門職大学の長を生かし、演劇的手法によるコミュニケーション教育や実践講座など、小中高大連携をはじめとする地域連携を推進する。 また、劇場等の大学施設の活用による芸術文化観光専門職大学ならではの県民に新たな学びの場を提供する生涯学習を推進する。</p> <p>ウ 芸術文化及び観光に係る国際交流の推進 海外大学等との協定締結や学生及び教員の交流推進により、芸術文化及び観光に係る新たな国際交流の場を形成し、地域と世界を結びつける社会づくりに貢献する。</p>	<p>イ 大学の長を生かした地域貢献の推進 ④⑦【県民ニーズに応える実践講座の開設や小中高大連携の推進】 県民や企業のニーズを踏まえた公開講座の開設や、コミュニケーション教育の小中高校におけるアウトリーチ、劇場等の大学施設の活用や図書館の地域への開放等により、本学の長を生かした特色ある学びの機会を県民に広く提供する。</p> <p>ウ 芸術文化及び観光に係る国際交流の推進 ④⑧【地域と世界を結びつける国際交流の推進】 海外大学等との協定締結や、実習の場となる国際的な芸術祭などを通じて、海外との交流を推進することで、地域の国際交流に貢献する。</p>	<p>イ 大学の長を生かした地域貢献の推進 ⑤⑧【県民ニーズに応える実践講座の開設や小中高大連携の推進】 県民や企業のニーズを踏まえた公開講座の開設や、コミュニケーション教育の小中高校におけるアウトリーチ、劇場等の大学施設の活用や図書館の地域への開放等により、本学の長を生かした特色ある学びの機会を県民に広く提供する。</p> <p>ウ 芸術文化及び観光に係る国際交流の推進 ⑤⑨【地域と世界を結びつける国際交流の推進】 海外大学等との協定締結や、実習の場となる国際的な芸術祭などを通じて、海外との交流を推進することで、地域の国際交流に貢献する。</p>	
<p>第3 管理運営に関する目標 1 戦略的経営の推進</p>	<p>3 両大学間の教育、研究及び社会貢献における連携</p>	<p>3 両大学間の教育、研究及び社会貢献における連携</p>	
<p>(4) 両大学間の連携 1 法人2大学の強みを生かし、より良い教育・研究環境が実現できるよう、情報共有や両大学の経営資源の相互利用などの連携した取組を行う。これにより、教育、研究、社会貢献の各分野において個々に進める以上の効果を発揮するとともに、効率的な経営を推進する。</p>	<p>1 法人2大学の強みを生かし、教育、研究、社会貢献の各分野において個々の大学で進める以上の相乗効果を発揮できるよう、両大学間の連携の取組を行う。</p> <p>④⑨【教育連携の推進】 兵庫県立大学の地域資源や防災、国際社会等に関する教育や、芸術文化観光専門職大学の演劇手法によるコミュニケーション教育など、両大学の特色ある教育等について、県立大学「全学共通科目」、専門職大学「基礎科目」等にかかる相互乗り入れ授業を実施し、両大学の学生の科目選択の幅を広げるなど、教育面での連携を推進する。</p> <p>⑤⑩【研究連携の推進】 異なる専門分野を持つ両大学の研究面での積極的な交流を図り、共同研究等を通じて、新たな知見を創出する。 特に、ともに但馬地域を主なフィールドとする兵庫県立大学地域資源マネジメント研究科と芸術文化観光専門職大学との共同研究発表の実施等の研究連携を推進する。</p> <p>⑥⑪【社会貢献連携の推進】 総合大学として幅広い学問分野を有する兵庫県立大学と、芸術文化及び観光の双方の視点を生かした取組を進める芸術文化観光専門職大学が連携を図り、新たな地域課題への対応や産学官連携の進展等の社会貢献を進める。 特に、ともに但馬地域を主なフィールドとする兵庫県立大学地域資源マネジメント研究科と芸術文化観光専門職大学との連携を深める。</p>	<p>1 法人2大学の強みを生かし、教育、研究、社会貢献の各分野において個々の大学で進める以上の相乗効果を発揮できるよう、両大学間の連携の取組を行う。</p> <p>⑤⑨【教育連携の推進】 兵庫県立大学の地域資源や防災、国際社会等に関する教育や、芸術文化観光専門職大学の演劇手法によるコミュニケーション教育など、両大学の特色ある教育等について、県立大学「全学共通科目」、専門職大学「基礎科目」等にかかる相互乗り入れ授業を実施し、両大学の学生の科目選択の幅を広げるなど、教育面での連携を推進する。</p> <p>⑥⑩【研究連携の推進】 異なる専門分野を持つ両大学の研究面での積極的な交流を図り、共同研究等を通じて、新たな知見を創出する。 特に、ともに但馬地域を主なフィールドとする兵庫県立大学地域資源マネジメント研究科と芸術文化観光専門職大学との共同研究発表の実施等の研究連携を推進する。</p> <p>⑥⑪【社会貢献連携の推進】 総合大学として幅広い学問分野を有する兵庫県立大学と、芸術文化及び観光の双方の視点を生かした取組を進める芸術文化観光専門職大学が連携を図り、新たな地域課題への対応や産学官連携の進展等の社会貢献を進める。 特に、ともに但馬地域を主なフィールドとする兵庫県立大学地域資源マネジメント研究科と芸術文化観光専門職大学との連携を深める。</p>	

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>第3 管理運営に関する目標 1 戦略的経営の推進</p>	<p>第3 管理運営に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 戦略的経営の推進に関する措置</p>	<p>第3 管理運営に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 戦略的経営の推進に関する措置</p>	
<p>(1) 社会ニーズの変化に対応できる体制の構築 理事長は法人経営に、学長は教学に専念しながら連携する体制のもと、大学改革を推進し、学生や社会、地域のニーズに応える大学づくりに取り組むため、理事長のリーダーシップのもと、法人組織や業務運営方法の不断の見直しを図る。また、各大学に大学運営について協議する組織として大学理事会を置き、学長のリーダーシップのもと、教職員の資質向上に取り組み、教育研究組織の活性化を図る。</p> <p>(2) 魅力発信と知名度向上 両大学が選ばれる大学であり続けるため、特色ある取組や優れた研究成果など他大学にはない強みや魅力を、ターゲットに応じて効果的に発信し、ブランディングによる知名度向上に取り組む。</p>	<p>(1) 社会ニーズの変化に対応できる体制の構築</p> <p>㉒【戦略的な法人経営体制の整備】 「理事長・学長分離型」を引き続き採用し、理事長のリーダーシップのもとで、理事会や経営審議会の意見も踏まえながら、戦略的な法人経営を行う体制を推進する。</p> <p>㉓【両大学の特色を生かした運営】 両大学の独自性を確保するため、それぞれの大学に大学理事会を置き、特色を生かした大学運営を行う。</p> <p>㉔【設立団体との連携】 設立団体である県との間で、大学の発展と課題解決に向けた方策等を協議するため、定期的に総合運営会議を実施する等、法人の業務運営と県行政との連携を確保する。</p> <p>㉕【教員評価制度の運用】 部局や研究分野の特性に応じて、研究成果の目標や評価基準等を適切に設定し、教育研究・社会貢献活動等の活性化に資するよう、教員評価制度の効果的な運用に努める。</p> <p>㉖【任用形態の多様化】 多様な任用形態を進めることで教員の質の向上を図るほか、任期付教員制度の見直しを検討する等、社会の変化に対応した教育研究体制を推進する。</p> <p>㉗【男女共同参画の推進】 性別を問わず、教員が教育研究と出産・子育て・介護等のライフイベントを両立するため、ワークライフバランスに配慮した環境整備を行う。また、多様で優れた教育研究・社会貢献活動を促進するため、女性教員を積極的に採用する等、男女共同参画を推進する。</p> <p>㉘【FD・SDの推進】 組織的かつ個人的な能力の向上に資するFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）を推進し、教職員が一体となって教育水準の向上を図る。</p> <p>(2) 魅力発信と知名度向上</p> <p>㉙【戦略的広報の展開によるブランドの構築と知名度の向上】 ターゲットに応じて効果的に情報発信する広報活動を戦略的に展開するほか、教育研究・社会貢献活動の内容や成果について、メディアやホームページ等を通じて広く国内外に積極的に発信することで両大学の知名度の向上、ブランドの構築を図る。</p>	<p>(1) 社会ニーズの変化に対応できる体制の構築</p> <p>㉒【戦略的な法人経営体制の整備】 「理事長・学長分離型」を引き続き採用し、理事長のリーダーシップのもとで、理事会や経営審議会の意見も踏まえながら、戦略的な法人経営を行う体制を推進する。</p> <p>㉓【両大学の特色を生かした運営】 両大学の独自性を確保するため、それぞれの大学に大学理事会を置き、特色を生かした大学運営を行う。</p> <p>㉔【設立団体との連携】 設立団体である県との間で、大学の発展と課題解決に向けた方策等を協議するため、定期的に総合運営会議を実施する等、法人の業務運営と県行政との連携を確保する。</p> <p>㉕【教員評価制度の運用】 部局や研究分野の特性に応じて、研究成果の目標や評価基準等を適切に設定し、教育研究・社会貢献活動等の活性化に資するよう、教員評価制度の効果的な運用に努める。</p> <p>㉖【任用形態の多様化及び事務局体制の強化】 多様な任用形態を進めることで教員の質の向上を図るほか、任期付教員制度の見直しを検討する等、社会の変化に対応した教育研究体制を推進する。<u>また、県派遣職員の法人独自職員への計画的な置換えや人員・組織の充実等、事務局体制の強化を図る。</u></p> <p>㉗【ダイバーシティの推進】 <u>性別、国籍、障がいの有無等にかかわらず、多様な人材がその能力を最大限に活かし、共創できる環境の実現を目指し、ダイバーシティ&インクルージョンを推進する。</u></p> <p>㉘【FD・SDの推進】 組織的かつ個人的な能力の向上に資するFD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）を推進し、教職員が一体となって教育水準の向上を図る。</p> <p>(2) 魅力発信と知名度向上</p> <p>㉙【戦略的広報の展開によるブランドの構築と知名度の向上】 ターゲットに応じて効果的に情報発信する広報活動を戦略的に展開するほか、教育研究・社会貢献活動の内容や成果について、メディアやホームページ等を通じて広く国内外に積極的に発信することで両大学の知名度の向上、ブランドの構築を図る。</p>	<p>観点⑬</p> <p>記載を追加</p> <p>項目名変更 記載の変更</p>

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>(3) 教育研究基盤への計画的な新規投資 社会経済のグローバル化、高度情報化や環境・エネルギー、健康・医療、ロボット・人工知能（AI）、芸術文化・観光等の成長分野への対応など、新たな教育研究ニーズに応えるため、将来にわたる教育研究の発展を支える新規投資を計画的に行う。</p>	<p>(3) 教育研究基盤の計画的な新規投資 ⑩〔最先端工学教育研究拠点の整備による世界水準の教育研究等の推進〕 老朽化・狭隘化した兵庫県立大学姫路工学キャンパス施設について、最先端の工学教育研究・人材育成・地域支援の拠点としての機能強化を目指し、施設の建替整備を計画的に進める。</p>	<p>(3) 教育研究基盤の計画的な新規投資 ⑩〔最先端工学教育研究拠点の整備による世界水準の教育研究等の推進〕 老朽化・狭隘化した兵庫県立大学姫路工学キャンパス施設について、最先端の工学教育研究・人材育成・地域支援の拠点としての機能強化を目指し、施設の建替整備を計画的に進める。</p>	
<p>2 効率的経営の推進</p>	<p>2 効率的経営の推進に関する措置</p>	<p>2 効率的経営の推進に関する措置</p>	
<p>(1) 経営資源の重点配分・相互利用 両大学の教育研究水準の維持・向上や中長期的な教育研究ビジョンの達成等に向け、限られた経営資源の重点的投入や、両大学の経営資源の相互利用により、効率的、効果的な経営を推進する。</p> <p>(2) 安全・快適な環境の計画的整備 「施設整備管理計画」に基づき施設の老朽化対策を進めるとともに、機器、設備の計画的な整備、更新を進め、安全・快適な環境整備を推進する。</p>	<p>(1) 経営資源の重点配分・相互利用 ⑪〔両大学の経営資源の相互利用〕 両大学の教育研究水準の維持・向上や中長期的な教育研究ビジョンの達成等に当たって、両大学の施設等の経営資源の相互利用や共通の情報システムの活用を行う等、法人としてコスト縮減を図り、効率的な経営を行う。</p> <p>⑫〔適切な教職員の配置〕 教育研究組織の統合・再編やカリキュラム内容の改編等に伴う教員配置の見直し、業務内容の変化や業務量の変動に伴う事務局組織の見直し等を随時行い、一層柔軟かつ適正な教職員の配置に努める。</p> <p>⑬〔外部資金等を活用した先導的・創造的な研究への重点配分〕 競争的外部資金により獲得した外部資金間接経費等を財源として、先導的・創造的分野に資金を重点配分し、研究の高度化を図る。</p> <p>(2) 安全・快適な環境の計画的整備 ⑭〔安全・快適な教育研究環境に係る施設の整備及び機器設備の整備・更新〕 兵庫県立大学では、教育研究環境の改善・充実を図るため、「兵庫県立大学施設整備管理計画」に基づき、計画的な施設の長寿命化・老朽化対策に取り組むほか、機器設備の整備・更新を進め、先端的な研究を支援する。 芸術文化観光専門職大学では、適切な施設管理等を実施し、安全・快適な教育研究環境の維持・充実を図る。</p>	<p>(1) 経営資源の重点配分・相互利用 ⑪〔両大学の経営資源の相互利用〕 両大学の教育研究水準の維持・向上や中長期的な教育研究ビジョンの達成等に当たって、両大学の施設等の経営資源の相互利用や共通の情報システムの活用を行う等、法人としてコスト縮減を図り、効率的な経営を行う。</p> <p>新⑩〔デジタルトランスフォーメーション（DX）による経営の効率化・高度化〕 <u>マネジメント部門におけるDXを推進し、総務・人事・財務等の法人運営や教育・研究を支援する業務の効率化及び高度化を図る。</u></p> <p>⑫〔適切な教職員の配置〕 教育研究組織の統合・再編やカリキュラム内容の改編等に伴う教員配置の見直し、業務内容の変化や業務量の変動に伴う事務局組織の見直し等を随時行い、一層柔軟かつ適正な教職員の配置に努める。</p> <p>新⑬〔教職員の多様な働き方の推進〕 <u>新型コロナウイルス感染症対策として限定的に認めている時差出勤や在宅勤務を制度化する等、教職員の多様な働き方の実現に向け検討を行う。</u></p> <p>⑬〔外部資金等を活用した先導的・創造的な研究への重点配分〕 競争的外部資金により獲得した外部資金間接経費等を財源として、先導的・創造的分野に資金を重点配分し、研究の高度化を図る。</p> <p>(2) 安全・快適な環境の計画的整備 ⑭〔安全・快適な教育研究環境に係る施設の整備及び機器設備の整備・更新〕 兵庫県立大学では、教育研究環境の改善・充実を図るため、「兵庫県立大学施設整備管理計画」に基づき、計画的な施設の長寿命化・老朽化対策に取り組むほか、機器設備の整備・更新を進め、先端的な研究を支援する。 芸術文化観光専門職大学では、適切な施設管理等を実施し、安全・快適な教育研究環境の維持・充実を図る。</p>	<p>観点⑩ 新規項目</p> <p>新規項目</p>
<p>3 自律的経営の推進</p>	<p>3 自律的経営の推進に関する措置</p>	<p>3 自律的経営の推進に関する措置</p>	
<p>(1) 財務運営の改善 法人運営の自律性を高め、持続可能な財務構造を確立するため、国の大型競争的資金や科学研究費補助金、企業との共同研究費など外部資金の獲得を促進する。</p>	<p>(1) 財務運営の改善 ⑮〔競争的研究資金等への積極的な申請による外部資金の獲得〕 研究力の強化を図るため、リサーチ・アドミニストレーターの支援等も活用しながら、外部資金獲得への取組に対する適切な支援を行い、積極的な申請を促し、競争的研究資金や公募型研究事業の採択を含めた外部資金の獲得を図る。</p>	<p>(1) 財務運営の改善 ⑮〔競争的研究資金等への積極的な申請による外部資金の獲得〕 研究力の強化を図るため、リサーチ・アドミニストレーターの支援等も活用しながら、外部資金獲得への取組に対する適切な支援を行い、積極的な申請を促し、競争的研究資金や公募型研究事業の採択を含めた外部資金の獲得を図る。</p>	

第二期中期目標	第二期中期計画（現行）	第二期中期計画（変更案）	
<p>また、ふるさと寄附等の寄附収入増加など、収入源の多様化に向けた取組を強化する。</p> <p>(2) 自己点検・評価及び情報の提供 自己点検・評価や法人評価委員会等による外部評価を踏まえながら、組織や業務執行について不断の改善・改革を進める。 また、県民への説明責任を果たすため、法人情報等を積極的に開示する。</p> <p>(3) コンプライアンスの推進 ア 法令の遵守 公共的な使命を持つ法人として、法令、社会的規範等のコンプライアンスを遵守するとともに、男女共同参画社会の実現に向け取り組む。</p> <p>イ 安全管理体制の確保 学生や教職員が安全かつ安心して学修や教育研究、就労を行えるよう安全・衛生管理やリスクマネジメントに取り組むとともに、情報セキュリティ体制の充実を図る。</p>	<p>⑥【ふるさとひょうご寄附金制度とも連携した基金の充実】 大学の将来的なビジョンや事業メニューを効果的に県内外に紹介し、県のふるさとひょうご寄附金制度とも連携して、県民、卒業生や企業等から幅広く寄附金を募り、「兵庫県立大学基金」や「芸術文化観光専門職大学基金」の充実を図る。</p> <p>(2) 自己点検・評価及び情報の提供 ⑦【中期計画等の評価への適切な対応及びPDCAサイクルの確立】 中期計画を着実に推進し、自己点検評価及び県の法人評価委員会の評価等へ適切に対応しながら、その改善に向けた取組を進めるPDCAサイクルの確立を図る。また、併せて中期計画期間3年経過後に、3年間の総合的な評価を実施し、中期計画の見直しも含めて検討する。 さらに、芸術文化観光専門職大学については、文部科学省への開学後4年間の履行状況報告の中でPDCAサイクルの確立等適切な対応を図る。</p> <p>⑧【情報公開の推進】 教育研究活動や大学運営状況等に係る情報を整理・蓄積し、適切に公開することにより、県民・社会への説明責任を果たす。</p> <p>(3) コンプライアンスの推進 ア 法令の遵守 ⑨【ハラスメント等の人権侵害の防止】 各種ハラスメントによる人権侵害を防止し、学生や教職員が快適な環境のもとで修学又は就労できるよう、啓発活動の強化を図り、相談員の適切な配置や教職員に対する研修等に取り組む。 ⑩【教職員のコンプライアンスの確実な推進】 コンプライアンス事案を予防するため、教職員に対し、法令・社会的規範等の遵守の重要性について、意識啓発を一層徹底する。また、コンプライアンス事案等が発生した際は、関係規程等に基づき、適切に対応する。</p> <p>イ 安全管理体制の確保 ⑪【安全・衛生管理の着実な推進】 学生や教職員の安全と健康を確保するため、労働安全衛生法その他関係法令等に基づく安全・衛生管理に着実に取り組む。 ⑫【BCPの策定と適切な運用】 南海トラフ地震や新型コロナウイルス感染症等、法人全体の運営に重大な影響を及ぼすリスクに対して、事業継続計画（BCP）を策定し、それに基づいて、必要な施設整備や非常用物資の備蓄、避難訓練、安全管理の啓発等、防災対策を強化する。また、新たなリスク要因が顕在化した場合等、適時適切な見直しに努める。 ⑬【情報セキュリティ体制の充実】 インターネットからのサイバー攻撃等が急速に複雑化・巧妙化している状況を踏まえて、情報システムのセキュリティ強化を図る。</p>	<p>⑦【ふるさとひょうご寄附金制度とも連携した基金の充実】 大学の将来的なビジョンや事業メニューを効果的に県内外に紹介し、県のふるさとひょうご寄附金制度とも連携して、県民、卒業生や企業等から幅広く寄附金を募り、「兵庫県立大学基金」や「芸術文化観光専門職大学基金」の充実を図る。</p> <p>(2) 自己点検・評価及び情報の提供 ⑧【中期計画等の評価への適切な対応及びPDCAサイクルの確立】 中期計画を着実に推進し、自己点検評価及び県の法人評価委員会の評価等へ適切に対応しながら、その改善に向けた取組を進めるPDCAサイクルの確立を図る。また、併せて中期計画期間3年経過後に、3年間の総合的な評価を実施し、中期計画の見直しも含めて検討する。 さらに、芸術文化観光専門職大学については、文部科学省への開学後4年間の履行状況報告の中でPDCAサイクルの確立等適切な対応を図る。</p> <p>⑭【情報公開の推進】 教育研究活動や大学運営状況等に係る情報を整理・蓄積し、適切に公開することにより、県民・社会への説明責任を果たす。</p> <p>(3) コンプライアンスの推進 ア 法令の遵守 ⑮【コンプライアンスの推進】 コンプライアンス事案を予防するため、教職員に対し、法令・社会的規範等の遵守の重要性について、意識啓発を一層徹底する。とりわけ、各種ハラスメントによる人権侵害を防止し、学生や教職員が快適な環境のもとで修学又は就労できるよう、相談員の適切な配置や教職員に対する研修等に取り組む。また、コンプライアンス事案等が発生した際は、関係規程等に基づき、適切に対応する。</p> <p>イ 安全管理体制の確保 ⑯【安全管理体制の確保】 学生や教職員の安全と健康を確保するため、安全・衛生管理に着実に取り組むとともに、南海トラフ地震や新型コロナウイルス感染症等、法人全体の運営に重大な影響を及ぼすリスクに対して、事業継続計画（BCP）を策定のうえ、適切に運用し防災対策を強化する。また、インターネットからのサイバー攻撃等が急速に複雑化・巧妙化している状況を踏まえて、情報システムのセキュリティ強化を図る。</p>	<p>現行⑥⑦を統合</p> <p>現行⑪～⑬を統合</p>

中期計画に定める評価指標の見直し・追加について

現 行					変 更 案						
1 兵庫県立大学					1 兵庫県立大学						
区分	指標項目	達成時期	目標値	参考 (現状値)	区分	指標項目	達成時期	目標値	参考 (現状値)		
教育	大学入学者志願者倍率 (学部・一般入試)	各年度	公立大学 全国平均以上	6.6倍(H30.3) 【※全国平均6.3倍】	教育	大学入学者志願者倍率 (学部・一般入試)	各年度	公立大学 全国平均以上	6.1倍(R4.3) 【※全国平均5.7倍】		
	就職率(学部)	各年度	全国平均以上	99.3%(H30.3) 【※全国平均98.0%】		就職率(学部)	各年度	全国平均以上	97.8%(R4.3) 【※全国平均95.8%】		
	留学生数	派遣人数	最終年度	300人		189人(H29年度)	留学生数	派遣人数	最終年度	200人*	7人(R3年度)
		受入人数	最終年度	350人		194人(H29年度)		受入人数	最終年度	250人*	231人(R3年度) ※コロナ禍の影響による制限等を考慮した設定
	CEFR_B2レベル 到達数	最終年度	300人	二		CEFR_B2レベル 到達数	最終年度	300人	65人(R3年度)		
	外国人教員比率	最終年度	5%	1.9%(H30.4) 【※全国平均4.4%(H29)】		新英語で行われている 講座数	最終年度	150講座	132講座(R3年度)		
研究	科学研究費補助金の 申請者率	各年度	100%	85.5% (H30年度交付分)	新国際学会で発表した 学生数	各年度	80人	58人(R3年度)			
	共同研究・受託研究数	6年間平均	300件	213件(H29年度)	外国人教員比率	最終年度	5%	3.1%(R3年度)			
	査読付き論文数	6年間平均	800本	757本(H29年度)	新起業人材育成プログラム の受講者数	各年度	40人	25人(R3年度)			
社会 貢献	地域連携事業の実施件 数	6年間平均	350件	297件(H29年度)	科学研究費補助金の 申請者率	各年度	100%	92.1% (R4年度交付分)			
	公開講座の延べ受講者 数	各年度	1,500人	705人(H29年度)	共同研究・受託研究数	6年間平均	300件	273件(R元～3年度平均)			
管理 運営	外部資金獲得額	6年間平均	20億円	17.2億円(H29年度)	査読付き論文数	6年間平均	1,150本	1,114本(R元～3年度平均)			
	メディアに取り上げ られた件数	各年度	600件	496件(H29年度)	新SDGsに係る全学的な フォーラム等の開催件数	各年度	3件	二			
	女性教員比率	最終年度	25%	21.4%(H30.3)	地域連携事業の実施件数	6年間平均	650件	613件(R元～3年度平均)			
管理 運営	外部資金獲得額	6年間平均	20億円	20.5億円(R元～3年度平均)	公開講座の延べ受講者数	各年度	2,500人	2,364人(R3年度)			
	メディアに取り上げ られた件数	各年度	600件	484件(R3年度)	外部資金獲得額	6年間平均	20億円	20.5億円(R元～3年度平均)			
	女性教員比率	最終年度	25%	23.0%(R3年度)	メディアに取り上げ られた件数	各年度	600件	484件(R3年度)			
	新女性教員の管理職割合	最終年度	25%	21.8%(R3年度)	女性教員比率	最終年度	25%	23.0%(R3年度)			
	新男性教職員の育児休業 取得者割合	最終年度	30%	10.0%(R3年度)	新女性教員の管理職割合	最終年度	25%	21.8%(R3年度)			
					新男性教職員の育児休業 取得者割合	最終年度	30%	10.0%(R3年度)			

現 行					変 更 案				
2 芸術文化観光専門職大学					2 芸術文化観光専門職大学				
区分	指標項目	達成時期	目標値	参考 (現状値)	区分	指標項目	達成時期	目標値	参考 (現状値)
教育	大学入学者志願者倍率 (一般選抜)	各年度	5倍	【※同規模大学 全国平均5倍】	教育	大学入学者志願者倍率 (一般選抜)	各年度	5倍	2.8倍(R4.3) 【全国平均5倍】
	就職率	最終年度	全国平均以上	【※全国平均98.0%】		就職率	最終年度	全国平均以上	【※全国平均95.8%】
	海外の大学との 協定件数	最終年度	10件	二		海外の大学との協定件数	最終年度	10件	6件(R3年度)
	外国人教員比率	最終年度	5%	二		外国人教員比率	最終年度	5%	9.3%(R3年度)
	芸術文化と観光を架橋する 教育に対する学生理解度	各年度	80%	二		芸術文化と観光を架橋する 教育に対する学生理解度	各年度	80%	91.0%(R3年度)
研究	科学研究費補助金等外部 資金の申請者率	各年度	80%	二	研究	科学研究費補助金等外部 資金の申請者率	各年度	80%	75.0% (R4年度交付分)
	芸術文化・観光の両分野共同 研究プロジェクト数	各年度	5件	二		芸術文化・観光の両分野共同 研究プロジェクト数	各年度	5件	4件(R3年度)
社会 貢献	地域 R&I センターで設定する 地域連携事業の目標達成度	最終年度	100%	二	社会 貢献	地域からの相談件数	期間累計	400件	75件(R3年度)
	公開講座の延べ受講者数	各年度	300人	二		新連携事業者数	期間延べ累計	50者	9者(R3年度)
管理 運営	外部資金獲得額	各年度	20,000千円	二		メディアに取り上げられた件数	期間累計	100件	50件(R3年度)
	メディアに取り上げられた 件数	各年度	100件	二		地域 R&I センター (本学) の 但馬地域での住民認知度	最終年度	80%	二
	女性教員比率	最終年度	25%	二		教員のプロジェクトへの参画率	期間累計	70%	59.3%(R3年度)
	本学の学びの質を高める 全教職員対象の研修会実施	各年度	2回	二		新地域連携事業への参加学生数	期間延べ累計	180人	35人(R3年度)
						「芸術文化」「観光」「経営」分野 のクロスボーダー型プロジェクトの件数	期間累計	20件	6件(R3年度)
						新但馬地域での活動に関連した 科研費等採択件数	期間累計	5件	1件(R3年度)
						公開講座の延べ受講者数	各年度	300人	85人(R3年度)
						外部資金獲得額	各年度	30,000千円	43,233千円(R3年度)
					メディアに取り上げられた件数	期間累計	600件	241件(R3年度)	
					女性教員比率	最終年度	25%	25.0%(R3年度)	
					本学の学びの質を高める 全教職員対象の研修会実施	各年度	6回	6回(R3年度)	